

ダイバーシティ チューナーモジュール

取扱説明書

URX-M2

お買い上げいただきありがとうございます。



注意

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、
けがをしたり、周辺の物品に損害を与えることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の
取り扱いかたを示してあります。この**取扱説明書をよくお読み**
のうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。



安全のために

ソニー製品は安全に十分に配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4 ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検を実施する

5 年に1 度くらいは内部の点検について、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご相談ください。

故障したら使用を中止する

お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 異常な音、におい、煙が出たら
- 落としたら



- ① 電源を切る。
- ② バッテリーおよびすべての接続ケーブルを抜く。
- ③ お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口に修理を依頼する。

炎が出たら



お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口に修理を依頼する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながる場合があります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



注意

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

行為を禁止する記号



指示

目次

⚠ 注意	4
商品の構成	5
特長	5
各部の名称と働き	6
電源	7
取り付けと組み込み	7
ダイバーシティーチューナー モジュール (URX-M2) の 組み込み	7
操作	9
雑音が発生するときは	9
受信機の設定	10
受信チャンネルを設定する	10
複数のチューナーモジュールの チャンネルを自動設定する	11
送信機の設定	12
使用チャンネルの選択	13
チャンネルプラン	13
システム構成例	15
エラーメッセージ	17
故障かなと思ったら	18
使用上のご注意	20
使用・保管場所	20
お手入れ	20
主な仕様	21
保証書とアフターサービス	22
保証書	22
アフターサービス	22

注意

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の物品に**損害**を与えることがあります。



禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、バッテリーまたは外部電源ケーブルや接続ケーブルを抜いて、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご相談ください。



禁止

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所では設置・使用しない

上記のような場所およびパワーアンプなど発熱体の近くで設置・使用すると、火災や感電の原因となることがあります。



指示

電源の ON/OFF 時には、接続した機器の入力を絞る

電源の ON/OFF 時には大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。



指示

受信待機時には、接続した機器の入力を絞る

受信待機時や RF レベルが小さくなったときは、大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。



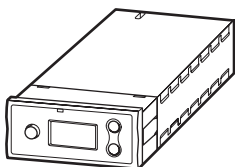
分解禁止

外装を外さない、改造しない

外装を外したり、改造したりすると、感電やけがの原因となることがあります。内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご依頼ください。

商品の構成

ダイバーシティーチューナーモジュール
(URX-M2) (1)



付属品

取扱説明書 (1)
保証書 (1)

ご注意

本書は、受信機 URX-M2 専用の取扱説明書です。

送信機 UTX-M03 と組み合わせて使用する際には、UWP-D シリーズの取扱説明書に記載されている UTX-M03 の設定方法を合わせてご覧ください。

特長

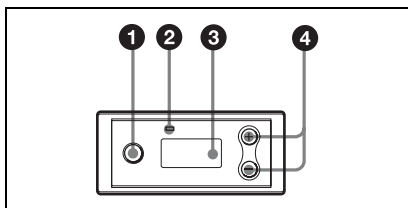
受信機 (ダイバーシティーチューナーモジュール (URX-M2)) はチューナーベースユニット MB-X6 やパワードミキサー SRP-X500P などに組み込んで使用するチューナーモジュールです。

ダイバーシティーチューナーモジュール (URX-M2) は別売の送信機と組み合わせて使用することで、パワードミキサーなどと組み合わせて AV プレゼンテーションや小規模な PA システムに使用できます。

ご注意

本機は、トランスミッター (WRT シリーズ) との互換性はありません。

各部の名称と働き



① SET (設定) ボタン

このボタンを押して、ディスプレイ部の表示内容や設定する内容を変更します。

- ◆ 詳しくは「受信機の設定」(10ページ)をご覧ください。

② RF (高周波入力) インジケーター

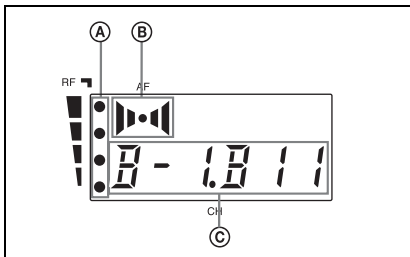
入力された高周波入力レベルによって、次のように点灯します。

点灯 (緑) : 入力レベルは $25 \text{ dB } \mu^1$ 以上

消灯 : 入力レベルは $25 \text{ dB } \mu^1$ 以下

1) $0 \text{ dB } \mu = 1 \mu \text{ V}_{\text{EMF}}$

③ ディスプレイ部



④ RF (高周波入力) 表示

高周波入力のレベルを表示します。入力レベルにより点灯するドット (●) の数が変わります。

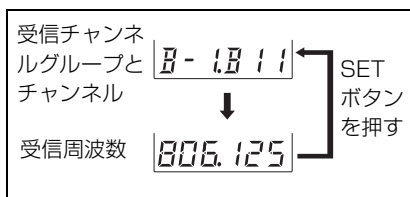
⑤ AF (音声出力) 表示

基準レベル以上の音声信号が出力されると表示されます。

⑥ CH (チャンネル) 表示

受信チャンネルのグループとチャンネルを表示します。SET ボタンを押すたびに、表示は受信チャンネルグループとチャンネル、受信周波数の順に切り替わります。

- ◆ 詳しくは「受信機の設定」(10ページ)をご覧ください。



⑦ + / - (設定値の増 / 減) ボタン

+ または - ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の設定値を表示させます。

電源

電源は組み込み先の機器（MB-X6、SRP-X500P など）から供給されます。

- ◆ ダイバーシティチューナーモジュール（URX-M2）の電源について詳しくは、組み込み先機器の取扱説明書をご覧ください。

取り付けと組み込み

ここでは、ダイバーシティチューナーモジュールのチューナーベースユニット MB-X6 とパワーDMIキサー SRP-X500P への組み込みかたについて説明していません。

ダイバーシティチューナーモジュール（URX-M2）の組み込み

ご注意

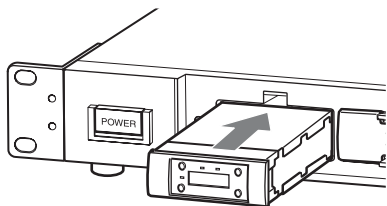
- 必ず組み込み先の機器の電源をOFFにしてからチューナーモジュールを組み込んでください。電源がONのときはチューナーモジュールの組み込み・取り外しは絶対に行わないでください。ノイズや、コネクタ不良の原因となります。
- チューナーモジュール後面の端子部や、チューナーロット内部に手を触れないでください。
- 静電気にご注意ください。

チューナーベースユニット MB-X6 に組み込む

MB-X6（別売）には、ダイバーシティチューナーモジュール（URX-M2）を6台まで組み込むことができます。

- ◆ チューナーモジュールの組み込みについて詳しくは、MB-X6 に付属の取扱説明書をご覧ください。

チューナーモジュールの側面を持ってスロットに入れ、カチッと音がするところまで押し込みます。

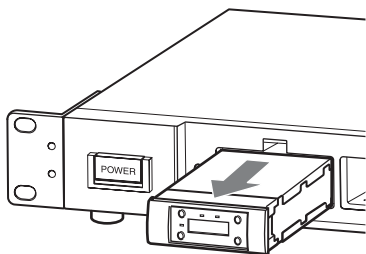


2 台以上のチューナーモジュールを組み込むには

あらかじめ MB-X6 のフロントカバーから、組み込みたいスロットのブラックパネルを取り外しておきます。

チューナーモジュールを取り外すには

MB-X6 のフロントカバーを外し、チューナーモジュールの上下をつまんでスロットから引き出します。

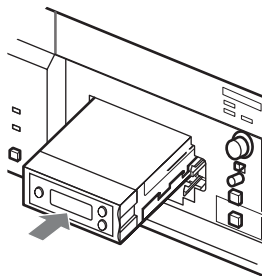


パワードミキサー SRP-X500P に組み込む

SRP-X500P（別売）には、ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M2）を 2 台まで組み込むことができます。

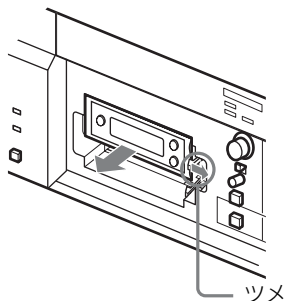
- ◆ チューナーモジュールの組み込みについて詳しくは、SRP-X500P に付属の取扱説明書をご覧ください。

SRP-X500P の誤動作防止パネル（大）を外し、チューナーモジュールの上下を確認してから、チューナーモジュールの側面を持ってスロットに入れ、押し込みます。



チューナーモジュールを取り外すには

SRP-X500P のチューナーモジュールを固定しているツメを横に引きながら取り出します。



操作

- 1 必要に応じて、受信機の接続をする。
 - ◆ 接続例について詳しくは、「システム構成例」(15 ページ)をご覧ください。
- 2 受信機のPOWERスイッチをONにして電源を入れる。

前回使用時に電源を切る前に表示されていた内容がディスプレイ部に表示されます。

ご注意

電源を入れるとノイズが発生しますので、受信機に接続した機器の入力を絞ってから電源を入れてください。

- 3 受信機の受信チャンネルを設定する。

送信機の電源を切った状態で受信機のチャンネルを切り換え、RF インジケーターが点灯していないチャンネルを選択します。

 - ◆ 受信チャンネルの設定について詳しくは、「受信チャンネルを設定する」(10 ページ)をご覧ください。
- 4 送信機の送信チャンネルを設定し、いったん電源を切る。
 - ◆ 送信チャンネルの設定について詳しくは、送信機の取扱説明書をご覧ください。
- 5 送信機の電源を入れる。

雑音が発生するときは

設置場所によっては、外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、使用チャンネルを設定するときに、送信機の電源をOFFにしたまま受信機のチャンネルを切り換え、RF インジケーターが点灯していないチャンネル(雑音や妨害電波の影響を受けていないチャンネル)を選択して使用してください。送信機も同じチャンネルに設定してください。

ご注意

混信や雑音を防ぐため、次の点に注意してください。

- 同じチャンネルに設定した送信機を同時に2本以上使わないでください。
- UWPシリーズを同時に2組以上使用する場合は、同一グループ内の互いに異なるチャンネルにそれぞれ設定してください。
- 送信機と受信機のアンテナは、互いに3 m以上離して使うことをおすすめします。
- 2組以上のUWPシリーズで異なるチャンネルグループを使用する場合は、仕切りや障害物がなく見通せる広い空間では、システム間の距離を100 m以上離してください。(距離は使用環境により異なります。)

受信機の設定

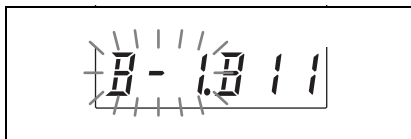
受信チャンネルを設定する

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、「チャンネルプラン」(13 ページ)を参照してください。

- 1 SET ボタンを 1 秒以上押したままにする。

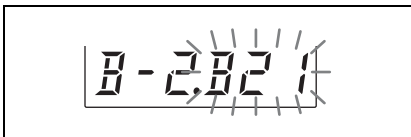
設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SET ボタンを押したままにしてください。

- 2 SET ボタンを繰り返し押して、チャンネルグループ表示を点滅させる。



- 3 + または - ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SET ボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。



ご注意

10 秒間どのボタンも押さないか、SET ボタンを 1 秒以上押したままに

すると、表示の点滅が止まり、その時点での設定内容が記憶されます。この動作は、他の項目を設定する場合も同じです。

- 4 + または - ボタンを押して、希望のチャンネル番号を表示させる。

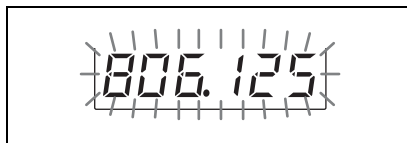
希望のチャンネル番号が表示されたら、約 10 秒間どのボタンも押さずにそのまま放置するか、SET ボタンを 1 秒以上押したままにします。表示の点滅が止まり、表示されているチャンネルが確定します。

周波数を表示させてチャンネルを選択するには

- 1 SET ボタンを 1 秒以上押したままにする。

設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SET ボタンを押したままにしてください。

- 2 SET ボタンを繰り返し押して、周波数表示を点滅させる。



- 3 + または - ボタンを押して、希望の周波数を選択する。

希望の周波数が表示されたら、約 10 秒間どのボタンも押さずにそのまま放置するか、SET ボタンを 1 秒以上押したままにします。表示の点滅が止まり、表示されている周波数が確定します。

ご注意

- 受信チャンネルの設定中でも、受信はできます。
- 設定中に電池を抜かないでください。抜けてしまった場合は、電池を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。
- 設定後に、電源を切った直後に電源を入れると、正しく動作しないことがあります。数秒経ってから、電源を入れてください。

複数のチューナーモジュールのチャンネルを自動設定する

ダイバーシティーチューナーモジュール (URX-M2) を MB-X6 に組み込んで多チャンネル同時運用を行う場合、スロット **1** に挿入したチューナーモジュールに対してチャンネルグループ設定を行うと、他のチューナーモジュールを自動的に同じグループの異なるチャンネルに設定することができます。

- 1** マイクロホンおよびトランスミッターの電源をすべてオフにする。
- 2** スロット **1** のチューナーモジュールで、使用するチャンネルグループを設定する。

- 3** チャンネルグループ表示が点滅から点灯に変わったのを確認してから (設定から約 10 秒後)、スロット **1** のチューナーモジュールの + ボタンを 3 秒以上押したままにする。

MB-X6 に組み込まれたすべてのチューナーモジュールが、同じグループの異なるチャンネルに自動的に設定されます。

自動設定後、各チューナーモジュールのグループおよびチャンネルを、手動で変更することもできます。

ご注意

- 空きチャンネルの自動設定は、チャンネルグループ 00 以外で行ってください。
- 外来電波などの影響で運用できないチャンネルがあった場合、チャンネルの設定ができなかったチューナーモジュールのディスプレイ部に「NO CH」と表示されます。この場合は、外来電波のない別のチャンネルグループを選択して、上記の手順を再度行ってください。

送信機の設定

URX-M2 と UTX-M03 を組み合わせて使用する場合は、UTX-M03 の設定を変更してください。

- ◆ 本機と組み合わせた際に使用できるチャンネルグループとチャンネルについては、「使用チャンネルの選択」(13 ページ)をご覧ください。

メニュー表示モードを設定する (MENU MODE)

- 1 SET ボタンを押しながら POWER/MUTING ボタンを長押しし、電源を ON にする。
- 2 + または - ボタンを押して MENU MODE を表示させる。
- 3 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。
- 4 + または - ボタンを押して ADVANCED を選択する。
- 5 SET ボタンを押して決定する。

コンパンダーモードを設定する (COMPANDER)

- 1 SET ボタンを押しながら POWER/MUTING ボタンを長押しし、電源を ON にする。
- 2 + または - ボタンを押して COMPANDER MODE を表示させる。
- 3 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

- 4 + または - ボタンを押して UWP を選択する。
- 5 SET ボタンを押して決定する。

使用チャンネルの 選択

UWP シリーズは、B 型帯域 30 チャンネルのうち、任意に選択したチャンネルを使用できます。

UWP シリーズを同時に複数使用する場合、混信を起こさないチャンネルの組み合わせが豊富に用意されています。

はじめに受信機のグループを指定し（00 グループ以外）、プログラムされているチャンネルを設定することにより、多チャンネル同時運用が容易に行えます。送信機の送信チャンネルを、受信機の受信チャンネルと同じチャンネルに設定してご使用ください。

チャンネルプラン

・ B 型標準チャンネルプラン表

チャンネル	周波数 (MHz)
B-11	806.125
B-12	806.375
B-13	807.125
B-14	807.750
B-15	809.000
B-16	809.500
B-21	806.250
B-22	806.500
B-23	807.000
B-24	807.875
B-25	808.500
B-26	808.875
B-31	806.625
B-32	806.875
B-33	807.375
B-34	808.250
B-35	808.625
B-36	809.250
B-41	806.750
B-42	807.500
B-43	808.000
B-44	809.125
B-45	809.375
B-46	809.750
B-51	807.625
B-52	808.125
B-53	808.375
B-54	808.750
B-55	809.625
B-61	807.250

• 受信機内蔵チャンネルプラン表

グループ名	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6
チャンネル名	B-11	B-21	B-31	B-41	B-51	B-61
	B-12	B-22	B-32	B-42	B-52	
	B-13	B-23	B-33	B-43	B-53	
	B-14	B-24	B-34	B-44	B-54	
	B-15	B-25	B-35	B-45	B-55	
	B-16	B-26	B-36	B-46		

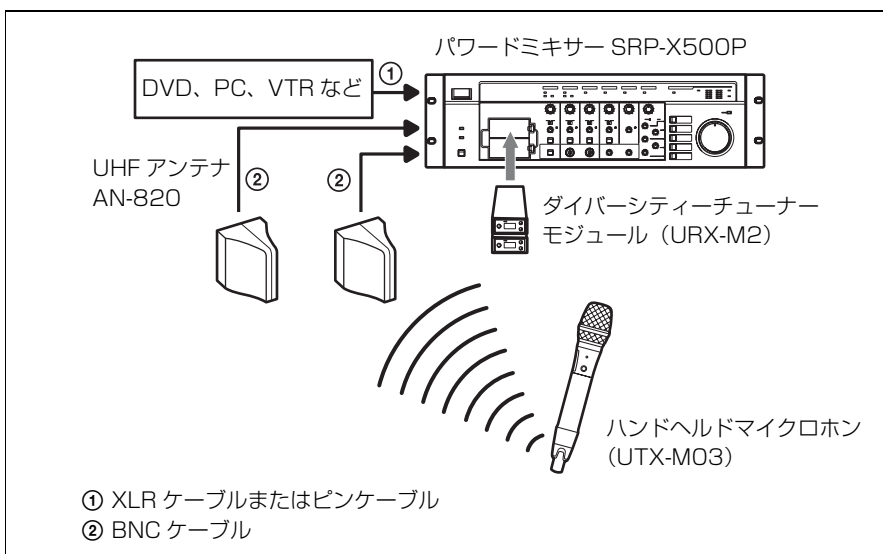
さらに、上記のチャンネルプラン以外に7チャンネル同時運用のためのソニーオリジナルチャンネルプランが2つあります（下表）。

グループ名	B-7	B-8
チャンネル名	B-11	B-21
	B-12	B-31
	B-33	B-13
	B-52	B-14
	B-54	B-25
	B-36	B-16
	B-55	B-46

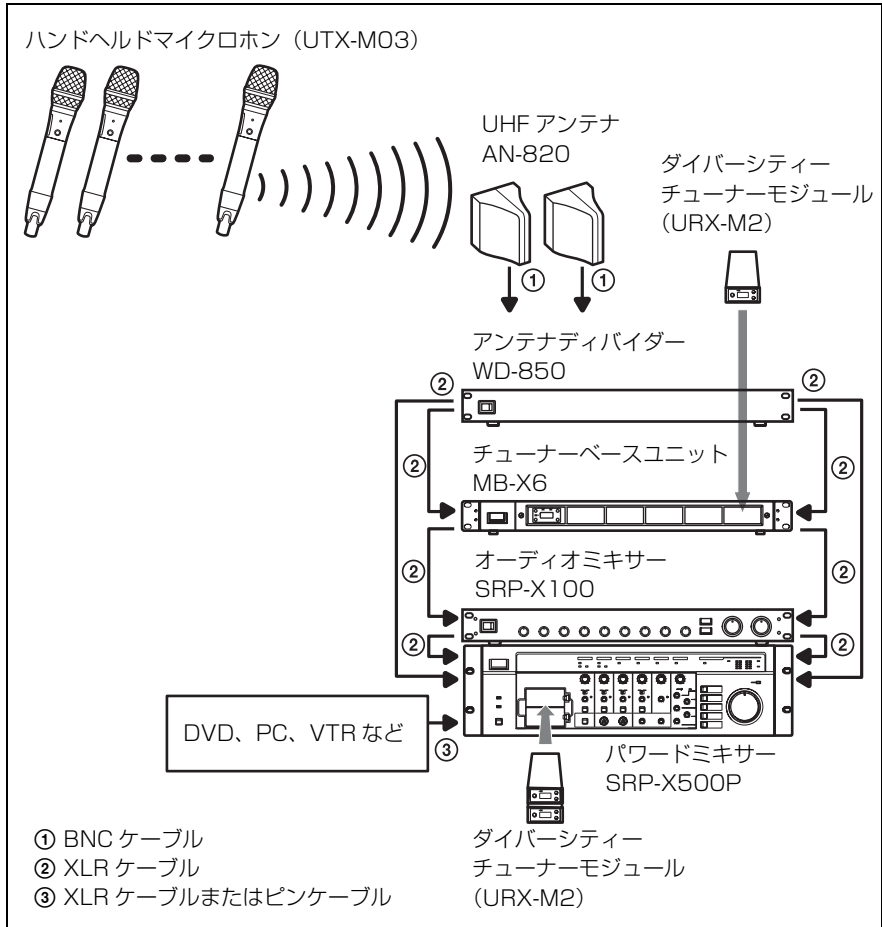
システム構成例

以下のシステム構成は、UWP シリーズの使用例です。

AV プレゼンテーションでの使用例



PA システムでの使用例



エラーメッセージ

ディスプレイ部には、通常表示の他に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

表示	意味	対応
Err 01	バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
Err 02	PLL シンセサイザー回路に異常があります。	電源を入れ直してみてください。それでも直らないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
チャンネルの変更ができない。	設定モードに入っていない。	SET ボタンを押しながら電源を入れて、ディスプレイ部のチャンネル表示を点滅させてから、+/- ボタンで変更してください。
音が出ない。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	受信機の RF インジケーターが点灯しない。	送信機と受信機の電源を確認してください。
	送信機が電波を送信していないか、送信出力が小さい。	送信機の電源を確認してください。または、送信機と受信機の距離を近づけてください。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機のコンパンダーモードを受信機に合わせてください。
	送信機がミュート状態になっている。	送信機の POWER/MUTING ボタンを押して、ミュート状態を解除してください。
音が小さい。	送信機のアッテネーターの設定値が大きい。	入力レベルが小さくなっています。送信機のアッテネーターを適正量に設定してください。
	アンプ、ミキサーのボリュームが下がっている。	ボリュームを上げて適正音量にしてください。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機のコンパンダーモードを受信機に合わせてください。

症状	原因	対策
音が歪む。	送信機のアッテネーターの設定値が小さい。または0である。	音量が過大入力です。音が歪まないように送信機のアッテネーターを設定してください。
	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機のコンパンダーモードを受信機に合わせてください。
音切れ、ノイズが発生する。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	2本以上の送信機が同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで2本以上の送信機は使用できません。「チャンネルプラン」(13ページ)に従って各マイクのチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない	本機のチャンネルプランは、2本以上の送信機を使用する場合、それぞれの送信機が混信しないように設定してあります。使用する送信機を同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。
	近接チャンネルで運用している。	<ul style="list-style-type: none"> ● チャンネルグループ01～09を使用してください。 ● 2チャンネル(250 kHz)以上離れたチャンネルを使用してください。
送信機の電源を切っても、受信機のRFインジケータが点灯している。	妨害電波が出ています。	まず、受信機をRFインジケータが点灯していないチャンネルに設定し、次に、送信機を同じチャンネルに設定してください。2本以上のマイクを使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。

使用上のご注意

使用・保管場所

- 本機を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置や送信機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- 本機を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定のS/Nを満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、十分に注意してください。
 - 回転機、変圧器などの付近
 - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
 - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
 - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をおつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合対策として、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。

お手入れ

表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

電波干渉を防ぐために

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、電波干渉を防ぐために電波の発射を停止する（電源を切る）か、あるいは周波数の変更（チャンネルの切り換え）を行ってください。

携帯通信機器による電磁波障害を防止するために

携帯電話などの通信機器を本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、音声に影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯通信機器の電源はできるだけ切ってください。

警告

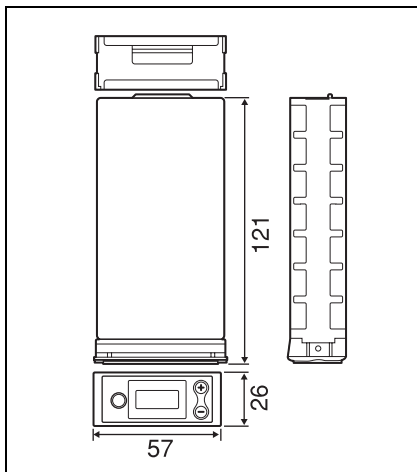
イヤホンやヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

主な仕様

受信方式	トゥルーダイバー シティー方式
局部発振	水晶制御 PLL シンセ サイザー
受信周波数	806 MHz ~ 810 MHz
S/N 比	60 dB 以上
ディエンファシス	50 μ s
基準周波数偏移	\pm 5 kHz
周波数特性	40 Hz ~ 15 kHz
ひずみ率	1.0% 未満 (1 kHz 変調)
トーン信号	32 kHz
インジケータ	RF 入力レベル
許容動作温度	0 $^{\circ}$ C ~ 50 $^{\circ}$ C
許容保存温度	- 20 $^{\circ}$ C ~ + 55 $^{\circ}$ C
スケルチレベル	25 dB μ
ディスプレイ部	チャンネル、周波数、 音声レベル、RF レベル

外形図



寸法	57 × 26 × 121 mm (幅/高さ/奥行き)
質量	約 150 g

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますがご了承ください。

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーのサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニーの営業所にお問い合わせください。

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>

Printed in Korea